舞踊創作学習指導法の変遷に関する研究
「清里研究会」と「提案グループ」の提案と成果

順天堂大学 中村 恭子
鎌倉女子大学 安村 清美
東京都女子体育連盟 高野 章子

Ⅰ．はじめに

昭和22年，学校教育におけるダンスは既成教材を教師が教授する教育から，生徒自身が表現を創出して踊る「表現・創作ダンス」が導入されて主体的学習へと転換した。しかし，当時は新しい学習内容およびその学習指導方法が開発されておらず，教育現場の混乱と指導の低迷を招いた。そこで松本は自らの指導経験と研究理論をもとに舞踊創作学習指導法の体系化・普及に努めた。清里研究会の指導法研究ならびに日本女子体育連盟の提案グループ・授業研究グループを中心に松本が提案した「課題学習」の成果により，現在では学習内容の見通しを得て学習指導法の確立をみるに到っている。

本研究は創作ダンスの学習指導法の変遷について，授業研究が開始された「清里研究会」時代（1962～1970）と「課題学習」の開発初期にあたる日本女子体育連盟「提案グループ」時代（1979.11～1986.4）での提案と成果を比較して学習指導法開発の変遷をみることを目的とする。なお，本研究は著者らの「松本千代栄研究―奈良女高師付属小における創造的自己表現の出発」，「―清里研究会における舞踊創作学習指導法」（共に第20回舞踊学会大会），「―舞踊研究の開始」（第22回大会）からの継続研究である。

Ⅱ．研究方法

「清里研究会」，「提案グループ」の研究会記録，および同時期の松本らの舞踊研究とを対照し，学習内容や指導法に関わる記述の変遷について分析した。

Ⅲ．結果および考察

1．松本の舞踊研究理論と提案内容の変遷

清里研究会：①ゲシュタルト理論をふまえ「創るためには創る要素を含んだ基礎でなければならない」として全習による基礎学習を基本理念に掲げた。②舞踊創作構造を作品の構造性，律動性，感情性，空間性，集団性の観点から分析し，これらに動きの表現的性質を知らせる指導の着眼点があるとして「表現技術指導の角度」を提案した。③作品創作過程の体系化と各学習段階に応じた創作技術指導を示した「創作指導の基本型」（後の「創作学習モデルⅠ」）を提案した。④発達段階に応じた学習内容を検討した。など，後々までの柱となる学習指導理論を構築し実証を進めた。清里研究会時代は学習指導の手順と助言の視点に関する提案が中心であった。

舞踊用語・舞踊構造機能研究の時代：清里研究会から提案グループ発足までの9年間は授業研究会がなかったが，その間に松本らは「動きの感情価に関する研究」「舞踊用語に関する研究」など一連の舞踊表現に関わる用語の分類・分析の研究を重ね，その帰納・演繹・推論の研究成果から「舞踊表現の構造と要素化」（初出1979.4，細密1982.3「舞踊の構造・機能と要素化」）を導き出した。清里研究会時代には未整理だった舞踊運動創出から作品創作に至るまでの舞踊構造と要素（主題，身体，運動，変化，連続，群，構成，作品）を段階的に配列して明示した。

提案グループ：①提案は「本質的で共通な学習内容」と「最小限で制約なく拡大しうる指導の原則」を求めた試案であった。②「舞踊表現の構造と要素化」の各要素から「運動－変化－連続」「群－構成」などの「舞踊課題」（学習内容）を導き出した。「舞踊運動課題」は運動からイメージへという創作学習の新たな着眼点となった。③課題化の原則は「2つ以上の異なった性質を持つ動きのよい連続」，指導の原則は「極限への挑戦と多様化」の2方向への誘導であった。課題の「ひと流れの動き」の学習に身体感覚の目覚めと個人の創意の発現を求めた内容と指導の方向といえる。④「1時間の学習の中で楽しく舞踊創作の本質に触れさせる指導」として「舞踊課題」を核に＜踊る・創る・観る＞の全体験を取り入れた1時間完結学習法「創作学習モデルⅡ」を提案した。⑤1持間完結学習の積み重ねから作品創作にいたる単元計画「創作学習モデルⅢ」を提案し，発達段階と学習段階に見合ったモデルの応用を示した。

2．研究組織と活動，研究成果

清里研究会：年1回の合宿研修。全国の意欲的な現場教員が自らの指導法研修の場として参加。松本提案にもとづき具体的な指導計画を実技・討議し，現場に持ち帰って実践した。実践成果の発表は研究会内部の情報交換にとどまっていたが，実践実証の確かさを持つ指導者の育成に寄与したといえる。

提案グループ：日本女子体育連盟25・30周年記念研究大会での提案を前提に，教育研究校など実験授業の実践者・研究者を中心に組織され，毎月継続的に活動した。松本提案の有効性を小・中・高における同一課題での実験授業を通じて実証。各発達段階に応じた学習内容・指導法へと練成し，新課題（イメージ，群構成）や単元計画の提案へ発展させるなど共同研究組織として重要な役割を担っていた。理論と実践実証によって高められた成果は毎年学会や学術誌上で報告され，指導者研修会で公開された。松本提案は優れた授業者・共同研究者の追跡研究を重ねて，建設的な伸展をみるに到ったと考察される。

Ⅳ．まとめ

舞踊創作学習指導法は①指導法（手順と助言）の開発と普及に努めた清里研究会時代，②舞踊用語・舞踊構造研究の時代③共通な学習内容「舞踊課題」と「創作学習モデル」を開発・提案した提案グループ時代と変遷し，共同研究組織による実践実証を経て確かな方法論の基盤を築いた。